

健やか親子なは 2015

(那覇市母子保健計画)

最終評価報告書



令和 7 年 3 月

那覇市



1. 経緯、実施体制

近年、少子高齢化や核家族化の進行、地域のつながりが希薄化していることなど、親子を取り巻く環境が大きく変化している中、安心して親子が暮らせる環境づくりが求められています。母子保健は、生涯を通じた健康づくりの出発点であり、国は、21世紀の母子保健の主要な取組を提示したビジョンである「健やか親子21(第2次)」、沖縄県は「健やか親子おきなわ21(第2次)」を策定しています。

那覇市でも、平成11年度に「母子保健計画ほほえみプランなは」、平成16年度に「健やか親子なは」、さらに平成26年度に、平成27年度から令和6年度までの母子保健計画として、「健やか親子なは2015(那覇市母子保健計画)」(以下「健やか親子なは2015」という。)を策定しました。

令和元年度は、「健やか親子なは2015」の計画期間の中間年度にあたり、策定した際と同様に、学識経験者、小児科医、産婦人科医、歯科医、母子保健推進員、NPO団体から構成される那覇市母子保健推進協議会で指標の分析、評価を行い、今後の取組の方向性を検討しました。

2. 基本理念と基本目標

「健やか親子なは2015」では、「すべての親と子が地域の中でともにいきいきと健やかな生活ができる」を基本理念として、これを達成するための4つの基本目標と20の具体的目標、28の評価指標を設定し、評価指標ごとに中間目標値(令和元年度)及び最終目標値(令和6年度)を掲げています。

基本理念

すべての親と子が地域の中でともにいきいきと
健やかな生活ができる

【基本目標1】安心、安全な妊娠・出産・育児ができる
4項目の評価指標

【基本目標2】乳幼児期から規則正しい生活習慣を身につけ、親も子も健やかに成長し、
笑顔で生活できる
16項目の評価指標

【基本目標3】地域に守られながら、子ども自らこころとからだの健康を考え
行動できる力がつく
5項目の評価指標

【基本目標4】親が心にゆとりを持ち子育てできる
3項目の評価指標

3. 評価方法

評価については、国の策定した健やか親子21最終評価報告書を参考に、設定した数値目標に対する達成状況を検証しました。

「健やか親子なは2015」は、直近の指標が、策定時、中間年、最終年目標に対してどのような動きになっているか(指標の達成状況)、施策や取組とデータの変化についての分析及び評価を行いました。

直近値が出ている指標について、A、B、C、D、E で評価を行いました。

A:数値が改善し、最終目標値に達している

B:数値は改善しているが、最終目標値には達していない

C:ほぼ変化無し

D:数値が悪化している

E:評価できない

計画の策定時(以下「策定時」という。)において、社会情勢等に応じた適切な計画となるよう中間年において、評価及びその見直しを行うこととされており、必要と判断された目標・指標については、見直しを行いました。

4. 最終評価の結果

(1) 指標の全体状況

表1:指標の達成状況

達成状況	基本目標 1~4の 合計	基本目標1	基本目標2	基本目標3	基本目標4
		安心、安全な 妊娠・出産・育 児ができる	乳幼児期から 規則正しい生 活習慣を身に つけ、親も子 も健やかに成 長し、笑顔で生 活できる	地域に守られ ながら、こども 自らこころと からだの健康 を考え行動で きる力がつく	親が心にゆと りを持ち子育 てできる
	指標項目数 28 (100%)	4	16	5	3
A 数値が改善し、最 終目標値に達して いる指標	14 (50%)	2	5	4	3
B 数値は改善してい るが、最終目標値 には達していない	12 (42.9%)	1	10	1	0
C ほぼ変化無し	1 (3.6%)	0	1	0	0
D 数値が悪化してい る	1 (3.6%)	1	0	0	0
E 評価できない	0 (0%)	0	0	0	0

(2) 基本目標別の指標の評価

ア 基本目標1 安心、安全な妊娠・出産・育児ができる

① 妊娠・出産について満足している者の割合(産後、退院してからの1ヶ月程度、助産

師や保健師等からの指導・ケアを十分に受けることができたと答えた者の割合)

策定時には乳幼児健診会場でアンケートを実施しましたが、中間評価時にアンケートが実施できず、具体的に数値を把握する方法を確立できませんでした。そのため、「妊娠・出産について満足している者の割合」を、「健やか親子21(第2次)」の指標となっている、「産後、退院してからの1ヶ月程度、助産師や保健師等からの指導・ケアを十分に受けることができたと答えた割合」に変更しました。その数値は、平成27年度は74.4%でしたが、平成30年度には82.2%、令和5年度には87.4%と増加しています。

改善に至った背景として、那覇市では育児不安の解消や産後うつの発症予防、虐待予防を強化するために、従来の保健師訪問、助産師訪問の他に、平成30年度に妊娠・出産・育児について気軽に相談できる子育て世代包括支援センター「ら・ら・ラステーション」を開設しました。

同年、産婦と赤ちゃんへの心身のケアや育児のサポートを行う「産後ケア事業」をスタートしました。

また、令和元年度には産科医療機関、沖縄県の協力のもと、産婦健診を開始しました。「産後ケア事業」につきましては、令和4年度よりサービスの種類・回数など拡充に努めました。更に、令和5年度より妊娠時から出産子育てまでの切れ目がない伴走型相談支援と経済的支援として「出産・子育て応援事業」を始めました。これらの事業については、市内、近隣市町村の産科医療機関への周知を継続的に行い、利用促進に努めています。また、保護者が前向きに育児に取り組めるよう、「子育てガイド」を全妊婦に配布し、妊娠中から利用できる母子保健事業や子育て支援サービスを周知し、活用を促しています。

② 全出生数中の低出生体重児の割合



全出生数中の低出生体重児の割合は、策定時の値より、直近値は悪化しています。那覇市は沖縄県平均より低い状況で推移していますが、全国平均より高い状況が続いているです。

沖縄県の分析では、低出生体重児の出生に影響を与える因子として、「37週未満の出生」、「妊娠後期の高血圧」、「非妊娠時のBMIが18.5未満」、「妊婦の身長が150cm未満」、「妊婦の喫煙」が挙げられています※¹。

親子健康手帳の交付窓口においては、低出生体重児の出生の予防につながるよう、早産の予防や、妊娠高血圧の予防、喫煙の影響について等の保健相談を継続するとともに、個別支援においても高血圧症や糖尿病などの予防及び悪化防止につながるよう努めます。

さらに、「非妊娠時のBMIが18.5未満」については、親子健康手帳交付時の保健相談に加え、思春期健康教育事業等で、妊娠前より自らの心と身体の健康を考える機会を提供していく必要があります。

また、歯周病は、早産・低出生体重児出産のリスク因子となることが示唆されており、那覇市では、妊婦及び生まれてくる子の歯科保健向上を目的に令和元年度から妊婦歯科健診を実施しており、令和5年度の受診率は32.8%まで上昇していますが、より多くの妊婦が健診を受けられるよう引き続き周知する必要があります。

出産後においては、未熟児で出産した保護者同士が交流し、学習の機会をもつことにより、孤立した育児を防ぎ、育児不安の軽減並びに主体的に育児に取り込むことができるよう、未熟児交流会等で保護者を支援していくことや、育児や発達の不安がある保護者に対しては、親子教室、発達相談等で支援していく体制を継続します。

※1「低出生体重児の要因分析と保健指導」報告書 H29.3月 沖縄県健康長寿課

③ 妊娠中の妊婦の喫煙率



沖縄県の分析では、低出生体重児の出生に影響を与える因子の1つとして、「妊婦の喫煙」があり那覇市の妊婦の喫煙率は、策定時の値より、直近値は改善していますが、最終目標値に達していません。親

子健康手帳交付窓口等で喫煙に関して保健相談を重視し、継続していく必要があります。また、沖縄県の分析では、授乳終了後に家族に喫煙者がいると再喫煙する

とのデータが示されていることを受け、乳児後期健診の会場にて令和 5 年度より沖縄県薬剤師会の協力を得て、禁煙相談を行っております。

④ マタニティマークを妊娠中に使用したことのある母親の割合

策定時には、乳幼児健診会場でアンケート調査を実施していますが、国の「健やか親子21(第2次)の中間評価に向けた乳幼児健康診査における調査について(依頼)」(H29.11.30 付け厚生労働省子ども家庭局母子保健課)、「マタニティマークを妊娠中に使用したことのある母親の割合」について、乳幼児健康診査において調査するよう依頼があり(中間・最終評価の各前年度)、平成 30 年度から乳幼児健診の必須問診項目に追加しています。そのため、最終評価では、乳幼児健康診査報告書の数値をもとに評価を行いました。

策定時のアンケート調査では、93.9%の乳児の保護者がマタニティマークを知っていると答えており、そのうち 50.5%がマタニティマークを妊娠中に使用したと答えています。調査方法は異なりますが、平成 30 年度の那覇市の乳児健診問診票では、マタニティマークを知っていると答えた保護者は 91.6%、令和 5 年度は 95.4%となっており、増加が見られます。また、マタニティマークを知っていたと答えた人のうち、マタニティマークを妊娠中に使用したことがある人についても、平成 30 年度には 36.6%でしたが、令和 5 年度は、54.8%となっており、増加がみられました。今後も、親子健康手帳交付時にステッカーやストラップを全妊婦に配布し、那覇市ホームページに掲載する等、様々な情報媒体を活用しながら、マタニティーマークの周知、使用者数の増加に努め、このマークを付けている方を見かけたら、思いやりのある気遣いができるように、地域での思春期教室等において普及啓発を併せて行っていく必要があります。



<指標の見直しと新しい指標>

- ・「妊娠・出産について満足している者の割合」を「産後、退院してからの1ヶ月程度、助産師や保健師等からの指導・ケアを十分に受けることができたと答えた者の割合」に変更
- ・「マタニティマークを妊娠中に使用したことのある母親の割合」については、把握方法を乳幼児健診(健やか親子なは)アンケートから乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)に変更

(%)

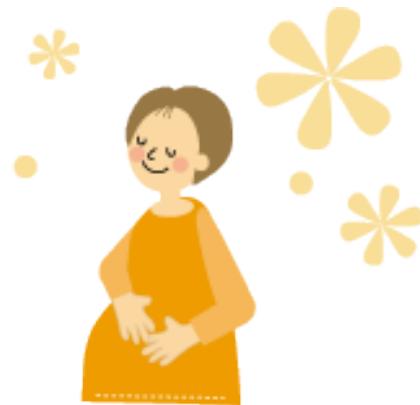
指標 (★:重点指標)		策定期	H30 年度 2018	中間 評 価	R2 年 度 2020	R3 年 度 2021	R4 年 度 2022	R5 年 度 2023	最終 評 価	最終 年目 標値 2024	把握方 法
【健康水準の指標】	(中間評価で変更) ①妊娠・出産について満足している者の割合	95.1 (H26 年度)	増加	E	—	—	—	—	—	—	乳幼児健診(健やか親子なは)アンケート
	(中間評価で変更) ①産後、退院してからの1ヶ月程度、助産師や保健師等からの指導・ケアを十分に受けることができたと答えた者の割合	74.4 (H27 年度)	82.2	—	81.4	85.2	84.3	87.4	A	増加	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)乳児健診前期
	★②全出生数に占める低出生体重児の割合	10.0 (H25 年)	減少	D	10.9	11	10.9		D	減少	人口動態統計
【健康行動の指標】	★③妊娠中の妊婦の喫煙率	4.6 (H25 年度)	3.3 減少	B	2.1	2	1.8	2.2	B	0	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
	(中間評価で変更) ④マタニティマークを知っている母親の割合	乳児 93.9 (H26 年度)	91.6	E	—	—	—	95.4	—	—	乳幼児健診(健やか親子なは)アンケート
	(中間評価で変更) ④マタニティマークを妊娠中に使用したことのある母親の割合	乳児 50.5 (H26 年度)	36.6	—	—	—	—	54.8	A	増加	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)乳児健診前期
【参考とする指標】	周産期死亡率 (出産千対)	5.1 (H25 年)	5.1	—	3.6	5	3.7	未			人口動態統計
	新生児死亡率、乳児(1歳未満)死亡率(出生千対)	新生児 0.6 (H25 年)	1.4	—	1.5	—	2.1	未			人口動態統計
	妊娠 11 週以下で妊娠の届出率	乳児 1.1 (H25 年)	1.7	—	3.3	0.8	3.3	未			
	妊娠中の夫の喫煙率	88.1 (H25 年度)	88.5	—	91.3	91.2	89.7	87.9	—	—	地域保健・健康増進事業報告

	妊娠中の妊婦の飲酒率	H27年度から乳児健診の問診追加項目として集計	1.5	—	0.9	0.8	0.7	0.8	—	—	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
	(中間評価で変更) 質問票 *(EPDS等)を活用する産科医療機関の数	今後調査	12ヶ所	—	—	—	—	—	—	—	産科向けアンケート
	(中間評価で変更) 質問票 *(EPDS等)を活用する産科医療機関の数	今後調査	12ヶ所	—	市内 10ヶ所 市外 21ヶ所	市内 10ヶ所 市外 23ヶ所	市内 9ヶ所 市外 27ヶ所	市内 9ヶ所 市外 27ヶ所	—	—	産婦健診を実施している医療機関

A: 数値が改善し、中間目標値に達している指標、B: 数値は改善しているが、中間目標値に達していない、

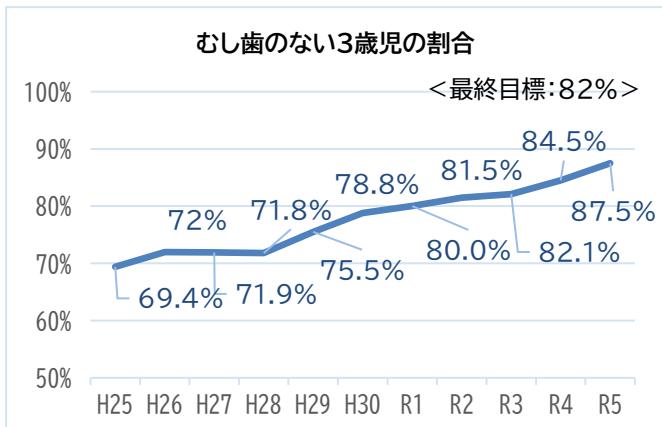
C: ほぼ変化無し、D: 数値が悪化している、E: 評価できない

*産後うつ質問票(EPDS)を活用する医療機関については、平成31年度から産婦健診を実施しているため、把握方法を産科向けアンケートから、産婦健診を実施している医療機関とする。(産婦健診はEPDS必須のため)



イ 基本目標2 乳幼児期から規則正しい生活習慣を身につけ、 親も子も健やかに成長し、笑顔で生活できる

① むし歯のない3歳児の割合



策定時の値より、年々数値は改善しており、直近値は最終目標値に達しています。その背景として、従来の乳幼児健診に加え、令和元年度より2歳児歯科健診を再開しています。また、妊娠期からの歯

科保健の向上を目指し、妊婦歯科健診を導入しています。

3歳児のむし歯につながる要因として、「第2子以降」、「親が仕上げ磨きを毎日していない」、「おやつの時間を決めていない」等があると指摘されています^{※1}。

那覇市のむし歯状況を分析したところ、「仕上げ磨きをする」、「食事やおやつの時間が決まっている」、「定期的にフッ化物を塗布している」場合には、むし歯有病者率が低くなっています^{※2}。

一方、4本以上のむし歯有病者率は令和2年度4.67%から令和4年度5.01%へ増加しており、引き続き妊娠期からのむし歯予防に取り組むとともに、多数のむし歯を有する者への対策が必要です。

また、令和4年度からは口腔保健支援センターを開設しており、公式LINEアカウントを利用して歯・口腔の健康についての情報発信を行い、「むし歯予防出前講座」を開催し、親子のむし歯予防に向けた取り組みを行っています。毎月8日にLINEにて歯・口腔の健康についての情報を配信しています。また、令和5年度の「むし歯予防出前講座」は、こども園や児童館にて6回開催しています。

今後も、妊娠中から生まれてくる子どもへと歯の健康づくりがつながるよう、既存の事業を継続し、更なる効果的なむし歯予防について検討していく必要があります。

※1 沖縄県における3歳児のむし歯の有病者率とその要因～沖縄県乳幼児健康診査システムの
解析 比嘉千賀子他

※2 令和5年度3歳児健診受診者データより



② ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合

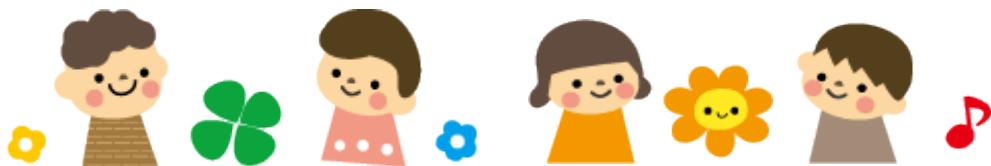
策定時の値より、改善しており、最終目標値に達しています。しかしながら、ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合は、子どもの年齢が高くなるにつれて低下している傾向にあります。保護者が過労や経済的困窮があり、育児不安や子育てのしにくさを感じていると、ゆったりした気分で子どもと過ごせる余裕がなくなります。令和2年度は新型コロナウイルス感染症が蔓延していた時期ではありますが、「ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合」は上昇しています。新型コロナウイルス感染症の「特別定額給付金」の緊急経済対策や、在宅ワークの導入により父親のサポートが得られる状況になったことが上昇の要因の一つになったのではないかと考えます。

那覇市では、毎年実施している地域での健康イベントや思春期教室で妊婦体験を実施しています。男性にも妊婦体験をしてもらうことで、家事育児参加への意識づけを行っています。

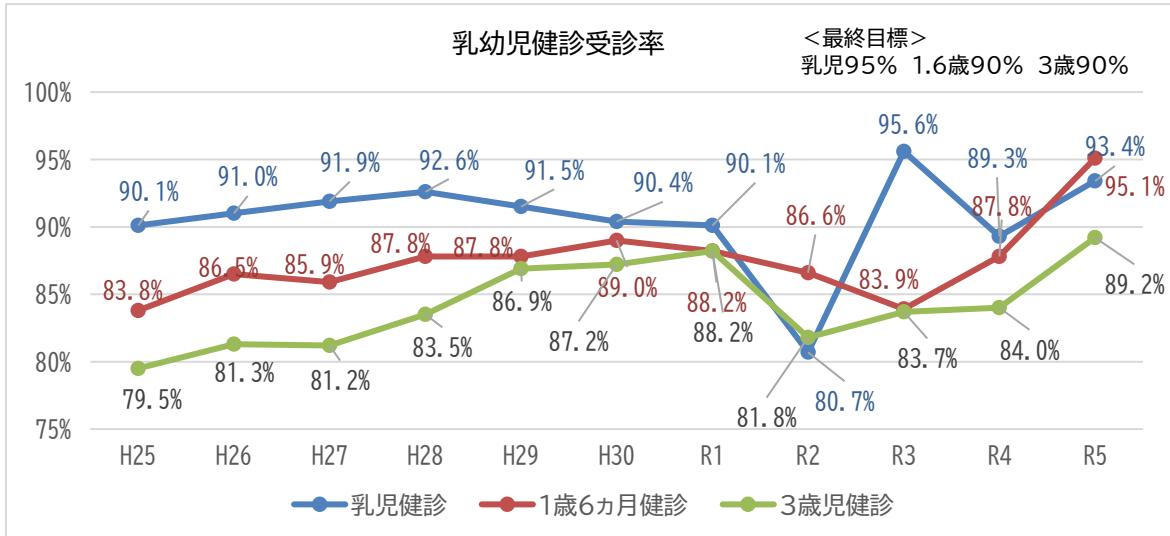
一方、ひとり親世帯は、育児負担や、経済的負担が大きいことも多く、ひとり親世帯に向けた支援としては、那覇市母子寡婦福祉会における1年に80時間のヘルパー派遣があり、父子家庭、母子家庭ともに利用できるサービスがあります。

平成30年度には、「ら・ら・らステーション」を開設し、LINE相談も活用しながら育児について気軽に相談できる相談窓口の活用を勧めています。また、同年に母親の心身のケアや育児のサポートを行う「産後ケア事業」を開始し、利用対象者・サービスの種類・回数などを拡充してきました。「産後ケア事業」における市民の利便性の向上のため、オンライン申請の導入や実施施設の拡充を検討しています。

今後も、健診現場やら・ら・らステーションでの相談対応を通して、育児相談の対応、保護者同士が交流できる場・育児サービスの情報提供を行っていく必要があります。



③ 乳幼児健康診査の受診率



乳幼児健診は、コロナ禍の影響で、休止を余儀なくされるなど、その対応に苦慮しました。令和2年度途中より、乳児健診を個別健診へ移行し、その他の健診は、感染対策を講じながら集団健診を再開しましたが、令和2年度においては健診受診率は低迷しました。令和3年度には、乳児後期健診も集団健診に戻し、受診率は概ね回復し、令和5年度の受診率は、全ての健診において前年度より向上しました。1歳6か月児健診は最終目標値に到達しており、乳児健診・3歳児健診については最終目標値に近づいている状況です。

令和5年度より、親子健康手帳アプリを導入しており、集団健診における予約サービスの開始、及びプッシュ通知による受診勧奨が、受診率向上に繋がっていると思われます。また、未受診者対策として、親子健康手帳アプリで予約し未受診だった方へ再度プッシュ通知や、ハガキによる再通知を行っていることや、保健師や母子保健推進員にて未受診者へ訪問や電話をして受診勧奨を行っていることも、受診率向上に繋がっていると考えます。

乳幼児健診は、子どもの健康状態の把握や保健相談、栄養相談、歯科相談等の場として活用されており、母子保健活動の根幹となるものです。また、乳幼児健診の未受診世帯の中には、背景に養育支援を要するケースや虐待のリスクがあると言われています。那覇市では、平成29年度から、「沖縄県子どもの貧困対策推進交付金」を活用し、3歳児健診の未受診者を対象に休日健診を実施しています。平成29年度は、受診率が中間目標値である85%を超え、沖縄県平均に近づきました。また、令和5年度の3歳児休日健診の受診者は、3歳児健診受診者全体の約4.4%に値しており、受診率向上にも寄与しています。そのため引き続き「沖縄県

子どもの貧困対策推進交付金」を活用し3歳児休日健診を実施し、今後も受診しやすい環境を整えていくこと、未受診者の健康状態を把握していく必要があります。

④ 「車に乗る時はチャイルドシートを使用している」と答えた人の割合

策定時の値と比べ、ほぼ変化がありません。3歳児のチャイルドシート使用率は他の月齢と比べて低くなっています。

事故予防のため、引き続き、親子健康手帳交付時や乳幼児健診会場にてチャイルドシート使用について啓発を行っていく必要があります。

⑤ 3歳児健診で21時台までに寝る子の割合

策定時の値より向上していますが、直近値は最終目標値には達していません。沖縄県小児保健協会における乳幼児健康診査報告書によると、21時台までに寝る子の割合は令和5年度66.4%であり那覇市も同様でした。

沖縄県は、サービス産業中心であり夜遅くまで開いている店舗も多く、親子連れもみられ、夜型社会と言われており、子どもの生活習慣にも影響を及ぼしていることから、県と連携し対策を検討していきます。

人間の身体には、体内時計と呼ばれる機能が備わっており、食事や睡眠などの行動パターンで神経や内臓が働くように調整しています。不規則な生活は体内時計のリズムの乱れを引き起し、疲れがとれない、よく眠れないなどの身体の不調につながることもあります。

那覇市では、体や脳の成長・発達に不可欠な生活リズムの重要性を伝えるために、保健師・保育士・母子保健推進員にて地域の子育て支援センター等へ出向き、出前教室を開催しており、令和5年度は5回開催しています。

今後も乳幼児健診会場や出前教室の開催にて、生活リズムを整えることの重要性を伝えていく必要があります。

⑥ 3歳児健診で「食事やおやつの時間が決まっている」と答えた人の割合

策定時の値と比べ、ほぼ変化がありません。決まった時間に食事やおやつをとることは、体や脳の成長・発達に不可欠な体内時計の機能をバランスよく保ち、生活リズムをつくること、むし歯予防からも重要です。令和5年度より乳児後期健診、1歳6か月児健診で栄養士による栄養相談を全数開始しました。引き続き、これらの重要性を乳幼児健診会場や出前教室等で伝えていく必要があります。

⑦～⑯ 予防接種率

予防接種率は、策定時の値と比べ、数値は改善しており、最終評価では、四種混合、MR1期、BCGが、最終目標値を達成しています。それ以外の予防接種は、最終目標値には届いていませんが、策定時より大幅に改善がみられています。

保健師や助産師による訪問、乳幼児健診等での接種勧奨と未接種者への再通知の回数を増やしています。

また、令和5年度より、親子健康手帳アプリを導入し、デジタル問診票の活用や、接種スケジュールの通知を行い、保護者が受診しやすい体制づくりを進めています。

BCGについては、平成25年度から標準的な接種期間が生後5か月～生後8か月未満で、1歳未満まで接種できるため、表記を「BCG(3カ月～6カ月未満)」から「BCG(1歳未満)」に変更しています。

水痘の予防接種については、接種対象が3歳未満となっており、1歳6か月児健診では2回接種又は未接種の幼児もいることから、1歳6か月児健診で水痘を「1回接種終了している者の割合」を「1回以上接種している者の割合」に変更しています。

麻疹・風疹(MR2期)の接種率については、麻疹・風疹(MR1期)と比べて接種率が低い状況もあり、今後は参考指標として数値を把握していきます。

<指標の見直しと新しい指標>

- ・「BCG(3カ月～6カ月未満)の接種率」を「BCG(1歳未満)の接種率」に変更
- ・「1.6健診で水痘を1回接種終了している者の割合」を「1歳6か月児健診で水痘の予防接種を1回以上接種している者の割合」に変更
- ・参考指標に「麻疹・風疹(MR2期)の接種率」を追加



(%)

指標 (★:重点指標)		策定時	H30 年度 2018	中 間 評 価	R2 年度 2020	R3 年度 2021	R4 年度 2022	R5 年度 2023	最 終 評 価	最終 年目 標値 2024	把握方法
【健康水準の指標】	★①むし歯のない3歳児の割合	69.4 (H25年度)	78.8	A	81.5	82.1	84.5	87.5	A	82	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
	②ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合	乳児 77.3 (H26年度)	89.3	A	94.4	93.5	93.8	91.7	A	増加	乳幼児健診(健やか親子なは)アンケートまたは乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
	1歳半児 75.3 (H26年度)	81.9	84.7		85.1	84.1	83.9				
【健康行動の指標】	3歳児 73.6 (H26年度)	75.1	78.8		78.3	78.6	78.9				
	★③乳幼児健康診査の受診率	乳児 90.1 (H25年度)	90.4	B	80.7	95.6	89.3	93.4	B	95.0	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
	1歳半児 83.8 (H25年度)	89.0	86.6		83.9	87.8	95.1	90.0			
	3歳児 79.5 (H25年度)	87.2	81.8		83.7	84.0	89.2	90.0			
④「車に乗る時はチャイルドシートを使用している」と答えた人の割合	乳児 96.6 (H25年度)	97.8	C	96.8	96.9	97.2	97.7	B	100	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)	
	1歳半児 95.7 (H25年度)	95.8		96.6	96.3	97.1	97.0				
	3歳児 85.2 (H25年度)	86.8		88.5	89.5	89.4	89.9				
⑤3歳児健診で21時台までに寝る子の割合		58.1 (H25年度)	62.5	B	64.9	65.7	66.5	67.6	B	90	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
⑥3歳児健診で「食事やおやつの時間は決まっている」と答えた人の割合		84.8 (H25年度)	84.8	C	86.2	84.2	83.4	84.0	C	増加	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
★⑦四種混合(3カ月~7歳6カ月未満)		75.8 (H25年度)	95.2	A	97.3	94.8	93.4	98.8	A	95	【策定時】那覇市市政概要
★⑧麻疹・風疹(MR)1期(1歳~2歳未満)		96.1 (H25年度)	97.4	A	98.9	94.4	92.6	97.4	A	95	那覇市市政概要
(中間評価で変更) ★⑨BCG(3カ月~6カ月未満)		83.1 (H25年度)	87.2	*中間評価よりBCG(1歳未満)に変更	89.4	89.3	87.8	95.1	A	95	那覇市市政概要

【参考とする指標】	★⑩ヒブ(2カ月～5歳未満)接種しているものの割合	70.9 (H25年度)	95.6	A	96.3	97.2	97.2	93.9%	B	95	那覇市市政概要	
	★⑪小児用肺炎球菌(2カ月～5歳未満)	75.8 (H25年度)	95.7	A	96.1	97.2	97.2	93.1	B	95	那覇市市政概要	
	★⑫3歳児健診で日本脳炎2回接種を終了している者の割合	45.1 (H25年度)	61.8	A	76.9	76.3	75.6	73.5	B	95	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)	
	★⑬1歳6か月児健診でB型肝炎3回接種している者の割合	10.0 (H25年度) H28(2016)	90.0	A	94.4	96.2	96.1	93.8	B	95	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)	
	★⑭1歳6か月児健診でロタ(1価)2回接種、ロタ(5価)3回接種を終了している者の割合	1価 (H25年度)	7.9	36.8	A	44.8	53.4	79.2	未	B	95	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
		5価	0.6	10.0		11.8	10.4	11.5	未			
	(中間評価で変更) ★⑮1歳6か月児健診で水痘を1回接種終了している者の割合	28.5 (H25年度) ※1回以上の割合:36.6 H26(2014)1月から定期接種化 *中間評価より「1回以上接種している者の割合」に変更	90.3	A	94.4	94.2	91.3	未	B	95	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)	
	★⑯1歳6か月児健診で流行性耳下腺炎を1回接種終了している者の割合	31.6 (H25年度)	55.1	A	65.0	64.3	60.8	54.8	B	95	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)	
	(中間評価で追加) 麻疹・風疹(MR)2期(小学校就学前の1年間)	— 参考 80.3 (H25年度)	95.3	—	95.3	92.2	91.7	88.3	—	—	那覇市市政概要	
	育児中の父母の喫煙率	父 親 乳 児	40.5 (H25年度)	36.5	—	33.1	33.2	30.6	31.7	—	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)	
		1歳半児	39.8 (H25年度)	35.2		31.7	31.4	32.4	30.0			
		3歳児	37.4 (H25年度)	34.2		31.2	31.3	30.6	31.6			
		母 親 乳 児	6.6 (H25年度)	5.3		4.0	4.3	5.2	5.7			
		1歳半児	7.0 (H25年度)	6.7		5.7	4.8	5.8	6.1			
		3歳児	7.8 (H25年度)	7.5		6.4	6.6	6.6	6.2			

(%)

指標 (★:重点指標)			策定時	H30 年度 2018	中 間 評 価	R2 年度 2020	R3 年度 2021	R4 年度 2022	R5 年度 2023	最 終 評 価	最終 年目 標値 2024	把握方法
【参考とする指標】	育てにくさを感じたときに対処できる親の割合	乳児 1歳半児 3歳児	H27年度から乳児健診の問診追加項目として集計	83.1	-	87.3	87.9	83.5	84.3	-	-	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
				85.8		85.8	81.8	80.6	80.6			
				85.7		86.0	83.0	84.3	83.0			
	子どもの社会性の発達過程を知っている親の割合	乳児 1歳半児 3歳児	H27年度から乳児健診の問診追加項目として集計	93.6	-	95.1	95.4	96.1	96.1	-	-	乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
				97.1		97.5	96.9	96.8	97.6			
				87.2		86.7	87.0	85.3	86.2			
	乳児の貧血 血色 11.0 g/dl 未満	10.0 未満	3.2 (H25年度)	3.4	-	2.9	3.7	2.9	2.5	-	-	【策定時】乳幼児健康診査報告書(沖縄県小児保健協会)
		10.0~ 11.0	22.1 (H25年度)	15.1		13.0	5.1	15.3	10.8			
		合計	25.3 (H25年度)	18.6		15.9	8.8	18.2	13.2			
	この地域で子育てしたいと思う親の割合	乳児 1歳半児 3歳児	76.2 [全体:75.1] (H26年度)	93.5	-	95.0	94.3	93.6	94.8	-	-	【策定時】乳幼児健診(健やか親子なは)アンケート
			72.5 (H26年度)	94.5		95.7	95.0	95.0	95.7			
			76.3 (H26年度)	94.4		96.0	95.7	96.1	95.5			

A: 数値が改善し、中間目標値に達している指標、B: 数値は改善しているが、中間目標値に達していない、
C: ほぼ変化無し、D: 数値が悪化している、E: 評価できない



ウ 基本目標3 地域に守られながら、子ども自ら こことからだの健康を考え行動できる力がつく

① 10代の人工妊娠中絶率(15~19歳女子の人口千対)

10代の人工妊娠中絶率について、衛生行政報告例では、市町村ごとの数値は出されておらず、那覇市の数値を把握することはできませんでしたが、沖縄県としての数値は策定時より4.3%減少しており、那覇市としても減少していると推察されます。

避妊方法について、令和5年度に中学3年生男女を対象に実施したアンケートで「避妊方法について学習したことがある」と回答した者の割合は、策定時の数値に比べ増加しており、このことも10代の人工妊娠中絶率の減少につながっている要因のひとつであると推察されます。

② 中学校、高校での思春期教室(避妊、性感染症の予防)の受講人数

策定時には「避妊方法・性感染症について学習したことがある者の割合」にて評価を予定しておりましたが、中間評価時にアンケートの実施がなく評価ができなかったことから、評価方法を「中学校、高校での思春期教室の受講人数」に変更しています。思春期教室の実施回数、受講人数ともに中間評価時より増加しています。

那覇市においては、沖縄県助産師会に委託し、子ども一人ひとりが、命の大切さや心身の健康について正しい知識を身につけられるよう、また、プレコンセプションケアを推進するため、中学校・高校での思春期健康教育事業の実施に加え、令和5年度からは小学校へも事業の拡充を図っております。

また、従来から保健師と地域で活動している母子保健推進員が、小中学校において妊娠シミュレーターや赤ちゃんの抱っこ体験などを行う思春期教室や、地域での健康イベントにおいても、「命の大切さ」などについての周知啓発に取り組んでいます。生徒達には、性に関する悩みが生じた際に匿名で利用できる思春期相談先の周知を行うとともに、今後は、ホームページの内容充実を検討していきます。

また、思春期に関わりのある関係機関及び庁内各課と思春期保健の課題の共有などを行う「思春期連携会議」を実施しており、今後も継続し、連携を図っていきます。

思春期健康教育事業以外では、令和5年5月には若年妊娠婦の居場所事業「ねいろ」も開所され、性に関する学習や家族計画の相談ができる機会が増えています。また、性感染症に関する出前講座を行っており、HIV等の性感染症の予防、性的多様性に関する講話を実施しています。

③ 10代の喫煙率(1ヶ月以内の喫煙)/10代の飲酒率(1ヶ月以内の飲酒)

策定時と令和5年度にアンケート調査を実施しています。

10代の喫煙率(1ヶ月以内の喫煙)は、策定時の値と比べると、中1男子では喫煙率が1.2%上昇していますが、中1女子では0%に低下しており最終目標値を達成しています。高3は男女とも策定時に比べ喫煙率が低下(高3男子は1.5%、高3女子は2.0%)しています。

10代の飲酒率(1ヶ月以内の飲酒)は、策定時の値と比べると、中1は男女ともに飲酒率が低下しており、令和5年度は0%で最終目標値を達成しています。高3も男女ともに飲酒率が低下しており、高3男子の飲酒率の低下が顕著です。

思春期教室では、喫煙、飲酒が心身の成長に与える害や、母体・胎児への影響について伝えています。思春期教室の実施回数、受講人数ともに策定時より増加しており、このことも10代の喫煙率・飲酒率の減少につながっている要因のひとつであると考えられます。また、母子保健推進員が思春期教室や地域の健康イベントへ参加し、赤ちゃん抱っこ体験、妊婦体験を通して、喫煙、飲酒が心身の成長に与える害や、母体・胎児への影響について伝えています。さらに、家族の喫煙状況が子どもの喫煙に影響を与えるため、健康づくり推進員が地域の健康イベントに参加し、たばこやアルコールの害について普及啓発を行っています。令和5年度からは、薬剤師会の協力のもと、乳児後期健診に「お薬相談コーナー」を設け禁煙相談も行っております。

今後も思春期教室の充実や保健ボランティアの活用、親子健康手帳交付窓口や乳幼児健診等で、喫煙や飲酒の害について普及啓発を図り、10代の喫煙率・飲酒率の減少を図る必要があります。

④ 12歳児一人平均う歯(むし歯)経験数

策定時より数値は改善し、最終目標値1.0未満を達成しています。歯・口腔について相談できる場として乳幼児健診の歯科診察、歯科相談があり、令和元年度より妊婦歯科健診、2歳児歯科健診を再開し継続実施しています。

また、令和4年度からは口腔保健支援センターを開設しており、公式LINEアカウントを利用して歯・口腔の健康についての情報発信を行い、「むし歯予防出前講座」を開催し、親子のむし歯予防に向けた取り組みを行っています。毎月8日にLINEにて歯・口腔の健康についての情報を配信しています。また、令和5年度の「むし歯予防出前講座」は、こども園や児童館にて6回開催しています。

幼少期からの継続した歯・口腔の健康づくりを実施しながら、効果的なむし歯予防の対策について今後も検討していく必要があります。

<指標の見直しと新しい指標>

- ・「避妊方法、性感染症について学習したことがある者の割合」を「中学校、高校での思春期教室（避妊、性感染症の予防）の受講人数」に変更



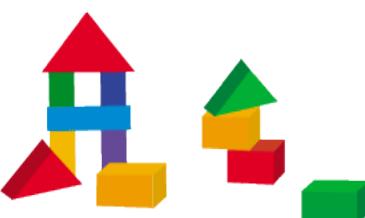
指標 (★:重点指標)			策定時	H30 年度 2018	中間 評価	R2 年度 2020	R3 年度 2021	R4 年度 2022	R5 年度 2023	最終 評価	最終 年目 標値 202 4	把握 方法
【健康水準の指標】	★①10代の人工妊娠中絶率女子15~19歳の人口千対	那覇	9.8 ※(H25年度)	9.5	E	—	—	—	—	A	減少	衛生行政報告例
		沖縄	7.6 (H25年度)	5.6		5.6	3.7	3.3	未			
		全国	6.6 (H25年度)	4.7		3.8	3.3	3.6	未			
【健康行動の指標】	★②10代の喫煙率(1ヶ月以内の喫煙)	男	0.0 (H26年度)	—	E	—	—	—	1.2	B	0.0	「健康なは21」アンケート
			2.8 (H26年度)	—		—	—	—	1.3			
		女	0.4 (H26年度)	—		—	—	—	0.0			
			2.5 (H26年度)	—		—	—	—	0.5			
	③10代の飲酒率(1ヶ月以内の飲酒)	男	1.7 (H26年度)	—	E	—	—	—	0.0	A	0.0	「健康なは21」アンケート
			11.2 (H26年度)	—		—	—	—	1.6			
		女	4.3 (H26年度)	—		—	—	—	0.0			
			3.8 (H26年度)	—		—	—	—	1.4			

(中間評価で変更) ④避妊方法・性感染症について学習したことがある	避妊方法	中3	男	52.2 (H26年度)	-	E	-	-	-	76.0	-	-	「健康なは21」アンケート	
			女	52.5 (H26年度)	-		-	-	-	83.2				
	性感染症	中3	男	82.2 (H26年度)	-		-	-	-	80.4				
			女	81.3 (H26年度)	-		-	-	-	74.4				
	(中間評価で変更) ④中学校、高校での思春期教室(避妊、性感染症の予防)の受講人数			-	8,503 人 (31回)	-	3,896 人 (32回)	4,484 人 (29回)	9,386 人 (45回)	10,186 人 (48回)	A	増加	・思春期健康教育事業(生涯を通じた女性の健康支援事業)	
	⑤12歳児一人平均う歯(むし歯)経験数(本)			1.84 (H25年度)	1.26	B	1.23	1.16	1	0.84	A	1.0未満	学校教育課(学校保健統計調査報告書)	
【参考とする指標】	思春期に関する(親と子)教育回数 ()は受講人数 ※R5から思春期健康教育事業の対象を小学校へ拡充			15回 (1,067人) (H25年度)	35回 (8,775人)	-	32回 (3,896人)	29回 (4,484人)	46回 (9,539人)	78回 (13,093人)	-	-	・思春期健康教育事業(生涯を通じた女性の健康支援事業等) ・母子保健推進員活動	
	近所の人との交流「お互いに助け合える関係」があると回答した割合	乳児		9.0 [全体: 11.3] (H26年度)	-	-	-	-	-	-	データ とれ ない	乳幼児健診(健やか親子なは)アンケート		
		1歳半児		11.1 (H26年度)	-	-	-	-	-	-				
		3歳児		13.7 (H26年度)	-	-	-	-	-	-				

A: 数値が改善し、中間目標値に達している指標、B: 数値は改善しているが、中間目標値に達していない、

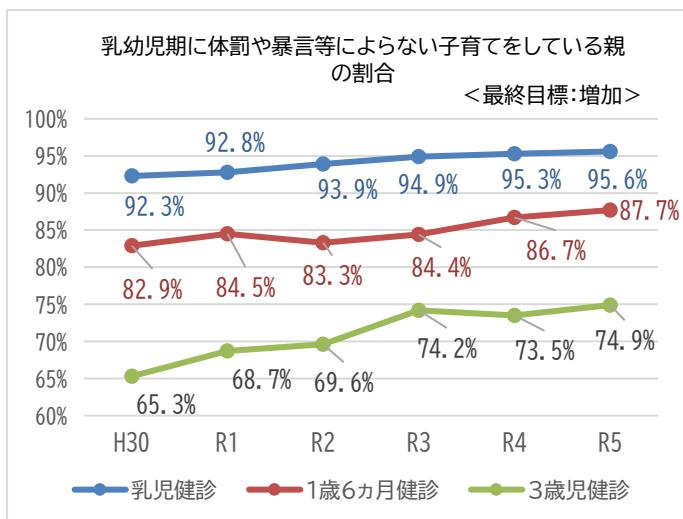
C: ほぼ変化無し、D: 数値が悪化している、E: 評価できない

※那覇市内病院からの報告数で市外居住者も含まれる



工 基本目標4 親が心にゆとりを持ち子育てできる

① 子どもを虐待していると思う親の割合(乳幼児期に体罰や暴言等によらない子育てをしている親の割合)



子どもを虐待していると思う親の割合について、策定時には、乳幼児健診会場でアンケート調査を実施していますが、国の健やか親子 21(第 2 次)中間評価において指標変更があったため、国と同様に、「乳幼児期に体罰や暴言等によらない子育てをしている親

の割合」に変更しています。令和 5 年度、那覇市における「乳幼児期に体罰や暴言等によらない子育てをしている親の割合」は、各乳幼児健診で見ると、乳児健診 95.6%、1 歳 6 か月児健診 87.7%、3 歳児健診 74.9% となっており、中間評価時と比べると改善傾向にあります。

令和 5 年度子育て応援課子育て支援室での児童虐待相談件数は 480 件と策定時に比べ約 2 倍に増加しています。虐待予防については、オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン(予防月間)時及び様々な母子保健事業を通し、周知・啓発等の取り組みを行っています。また、周知・啓発については、厚生労働省が作成した「体罰等によらない子育てを広げよう！」のチラシ等を乳幼児健診会場等で配布しています。

妊娠中や出産後において、若年妊娠婦等の養育環境が気になるケース等に関しては医療機関から子育て支援依頼として情報提供があり、保健師は関係機関と連携を取りながら支援を行っています。また、若年妊娠婦の支援強化のため、令和 5 年度に若年妊娠婦の居場所(ねいろう)を設置しています。

虐待による子どもの死亡事例等の検証^{*1}では、予期せぬ妊娠や親子健康手帳(母子健康手帳)の未申請、妊婦健診未受診等の事例が見受けられるため、妊婦健診未受診で分娩に至ったケースについては、全例において医療機関や関係機関と連携しながら保健師にて支援を行っています。

平成 30 年度からは産後ケア事業を実施しており、産後のケアにおいて助産師による心身のケアや具体的な育児指導・助言を行う等、産婦の休息時間を確保す

ることで産後うつの発症予防や虐待リスクの軽減にも繋がっていると考えます。また、令和5年度より妊娠時から出産子育てまでの切れ目ない伴走型相談支援と経済的支援として「出産・子育て応援事業」を始めました。

乳幼児健診からの虐待予防のアプローチとして、育児不安が強い方や養育環境等が気になる方については、地区保健師へ引き継がれ、支援介入しています。新型コロナウイルス感染症流行により、乳児健診を個別健診として医療機関で実施していますが、個別健診においても、虐待に関するアンケートから気になる回答があつたケース等については医療機関から保健師へ引き継がれています(令和4年度より乳児後期健診の集団健診を再開し、乳児前期健診のみ個別健診実施)。また、健診未受診者については貧困を始めとした虐待リスクなど、支援が必要な状況があると考えられるため、母子保健推進員や保健師が未受診世帯を訪問し、養育環境の確認や受診勧奨を実施しています。

子ども虐待対応の手引き^{※2}では、虐待に至るおそれのある要因・虐待のリスクとして留意すべき点のうち、子ども側のリスク要因の一つとして「保護者にとって何らかの育てにくさを持っている子ども」があげられています。また、「健やか親子21(第2次)^{※3}」では、育てにくさの概念は広く、一部には発達障害等が原因となっている場合があるとされています。

那覇市の発達支援強化事業においては、出前教室として保健師や保育士、母子保健推進員が地域の子育て支援センター等に出向き、保護者へ子どもの発達を促す関わり方について伝えるとともに、子どもの発達に不安を抱く保護者に対して相談対応をしています。また、精神発達において経過をみる必要のある児や、発達に関して不安や悩みを持つ保護者に対して、発達相談や親子教室を実施しています。

※1 こども虐待による死亡事例等の検証結果等について 令和5年9月

こども家庭審議会児童虐待防止対策部門 児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会

※2 子ども虐待対応の手引き(令和6年4月 改正版)こども家庭庁支援局虐待防止対策課

※3 健やか親子21(第2次)について 「健やか親子21」の最終評価等に関する検討会

座長 五十嵐隆(国立成育医療研究センター総長)

② ゆさぶられ症候群を知っている親の割合

「ゆさぶられ症候群を知っている親の割合」は、策定時には、乳幼児健診会場でアンケート調査を実施し、把握していますが、平成27年度から乳児健診の問診項目に追加されたため、乳幼児健診報告書で数値を把握しています。令和5年度「ゆ

さぶられ症候群を知っている親の割合」は 95.0%となっています。策定時と比べ割合は高くなっていますが、中間報告値と比べて若干減少しています。

ゆさぶられ症候群を周知・啓発する取り組みとして、こんにちは赤ちゃん事業で配布している「こんにちは赤ちゃん」の冊子の中に乳幼児ゆさぶられ症候群について記載しています。また、乳児健診の受診票のアンケート項目において、ゆさぶられ症候群を知らないと回答した保護者に対して、相談対応しています。ゆさぶられ症候群を知らない親が少なからずいることから、今後もこんにちは赤ちゃん訪問事業や乳幼児健診、保健師の支援等において引き続き周知していく必要があります。

③ 子育てをサポートしてくれる人がいない親の割合

令和 5 年度の「子育てをサポートしてくれる人がいない親の割合」は 6.3%となっており、策定時・中間評価時と比較し、減少傾向にあります。身近な子育ての相談窓口として、地区保健師やら・ら・らステーション等で相談対応しています。また、育児負担軽減や休息時間確保のため、産後ケア事業等の母子保健事業を紹介し、利用を促しています。

さらに、親が孤立しないよう、今後、地域住民や地域コミュニティ等の地域に属する団体と連携し、子育てサポートの仕組みづくりを協働で検討していきたいと考えます。

【参考】

「子育て上の不適切な行動について尋ねる質問」

この数か月の間に、ご家庭で以下のことがありましたか。あてはまるものすべてに○を付けてください。

【乳児健診、1歳 6か月児健診】

- ①しつけのし過ぎがあった
- ②感情的に叩いた
- ③乳幼児だけを家に残して外出した
- ④長時間食事を与えなかった
- ⑤感情的な言葉で怒鳴った
- ⑥子どもの口をふさいだ
- ⑦子どもを激しく揺さぶった
- ⑧いずれも該当しない

【3歳児健診】

- ①しつけのし過ぎがあった
- ②感情的に叩いた
- ③乳幼児だけを家に残して外出した
- ④長時間食事を与えなかった
- ⑤感情的な言葉で怒鳴った
- ⑥いずれも該当しない

<指標の見直しと新しい指標>

・「子どもを虐待していると思う親の割合」を「乳幼児期に体罰や暴言等によらない子育てをしている親の割合」に変更

(%)

指標 （★:重点指標）		策定時	H30 年度 2018	中間 評価	R2 年度 2020	R3 年度 2021	R4 年度 2022	R5 年度 2023	最終 評価	最終 年目標値 2024	把握 方法
【健康水準の指標】	(中間評価で 変更) ★①子ども を虐待して いると思う 親の割合	乳児	4.1 [全体 5.6] (H26 年度)	—	E	—	—	—	—	—	乳幼児健 診(健やか 親子なは) アンケート
		1歳半児	5.1 (H26 年度)	—		—	—	—			
		3歳児	7.5 (H26 年度)	—		—	—	—			
	(中間評価で 変更) ★①乳幼児 期に体罰や 暴言等によ らない子育 てをしている 親の割合	乳児	—	92.3	—	93.9	94.9	95.3	95.6	A	増加
		1歳半児	—	82.9		83.3	84.4	86.7	87.7		
		3歳児	—	65.3		69.6	74.2	73.5	74.9		
【健康行動の指標】	②ゆさぶられ症候群を知っている親の割合(乳児健診)	85.8 (H26 年度)	97.3		98.4	98.6	95.1	95	—	—	【策定時】 乳幼児健 診(健やか 親子なは) アンケート
	(中間評価で変更) ②ゆさぶられ症候群を知っている親の割合(乳児健診)	—	97.3	E	98.4	98.6	95.1	95.0	A	増加	H27 年度 から乳幼 児健康診 査報告書 (沖縄県小 児保健協 会)
【環境整備の指標】	③子育てをサポートしてくれる人がいない親の割合(乳児健診前期)	9.2 (H25 年度)	9.7	D	8.4	7.1	7.3	6.3	A	減少	【策定時】 乳幼児健 診査報告書 (沖縄県小 児保健協 会)
【参考とする指標】	子育て支援室の 児童虐待相談件数		235 件 (H25 年度)	292 件	—	307 件	462 件	643 件	480 件	—	—
	171 件 (H24 年度)										【策定時】 子育て応 援課子育 て支援室 (家庭児童 相談実施 状況)
	こんにちは 赤ちゃん訪 問の件数と 率 (乳児家庭全 戸訪問事業)	訪問 件数	2,963 件 (H25 年度)	2,612 件	—	2,493 件	2,380 件	2,287 件	2,139 件	—	—
		実施率	85.1 (H25 年度)	93.9		95.7	92.6	101.4	99.4		【策定時】 子育て応 援課

A: 数値が改善し、中間目標値に達している指標、B: 数値は改善しているが、中間目標値に達していない、
C: ほぼ変化無し、D: 数値が悪化している、E: 評価できない

那霸市母子保健推進協議会委員名簿
 (任期:令和7年1月25日まで)

	代表区分	氏名	所属	
1	学識経験者	當山 裕子	琉球大学医学部保健学科 地域看護学	会長
2	関係団体 (小児科医)	松岡 孝	沖縄県南部医療センター・こども医療センター 小児部門 小児総合診療科	副会長
3	関係団体 (産婦人科医)	渡嘉敷 みどり	沖縄県産婦人科医会	
4	関係団体 (歯科医)	井上 博文	(社)南部地区歯科医師会	
5	関係行政機関	義田 恵	沖縄県子育て支援課 母子保健班	
6	関係団体 (母子保健ボランティア)	具志堅 恵子	那霸市母子保健推進員協議会	
7	関係団体 (沖縄県助産師会)	川満 恵子	沖縄県助産師会	
8	関係団体・市民 (子育て支援)	高野 大秋	社会福祉法人那霸市社会福祉協議会 那霸市ファミリーサポートセンター	